

# 夏のNICピックアップイベント!

## グローバルユースフォーラム

社会起業家として世界的に活躍する白木夏子氏を迎え、現在のキャリアをどのように築いてきたのか、ご自身の思いや体験をお話していただきます。また、この地域でグローバルに活躍する若者との意見交換を行います。  
グローバル人材への一歩を踏み出す若者を応援します!



**講師** 白木夏子氏(起業家、ジュエリーブランドHASUNA Founder&CEO)  
愛知県一宮市育ち。愛知淑徳高校、南山大学短期大学部を出て英ロンドン大学卒業後、国際機関、投資ファンドを経て2009年4月に株式会社HASUNAを設立。ジュエリーブランドHASUNAでは、ペルー、パキスタン、ルワンダほか世界約10か国の宝石鉱山労働者や職人とともにジュエリーを制作し、エシカルなものづくりを実践。日本におけるエシカル消費文化の普及に努める。

**日時** 8月19日(日) 13:00~15:00  
**参加費** 無料  
**定員** 150名(先着、要申込)  
**場所** 名古屋国際センター 別棟ホール  
**受付期間** 受付中~8月18日(土)17:00まで

## グローバルユース塾 入門編

講師のお話やワークショップなどを通して、グローバル化とその課題について知識を深めます。自身の今後の行動について、一緒に考えてみませんか?



**講師** 下澤 嶽氏(静岡文化芸術大学教授、平和構築NGOジュマ・ネット共同代表)  
静岡文化芸術大学文化政策学部教授、大学院文化政策研究科長。シャプラニール=市民による海外協力の会、国際協力NGOセンター(JANIC)の事務局長を歴任。近年は浜松市のフェアトレードタウン及び静岡文化芸術大学のフェアトレード大学認定などに尽力。

**日時** 9月29日(土) 13:00~17:00  
**対象** 15歳~35歳の若者  
**場所** 名古屋国際センター 5階 第1会議室  
**定員** 60名(先着、要申込)  
**参加費** 無料  
**受付期間** 8月1日(水)~9月28日(金)  
※8月1日は10:00から受付開始

「グローバルユースフォーラム」 名古屋国際センター 交流協力課(月曜および8/12は休館)  
「グローバルユース塾 入門編」 申込・問合せ ☎052-581-5691(受付9:00~17:00) ✉koryu@nic-nagoya.or.jp

## UNHCR 難民映画祭2018

**名古屋開催** あなたは難民について どのくらい知っていますか…?

**開催日** 10月6日(土)、7日(日)  
**場所** 名古屋国際センター 別棟ホール  
**参加費** 無料  
**定員** 6作品各回200名(先着、要申込)

**<参加申込>**  
申込方法:下記WEBサイト中「お申し込み」の欄をご確認ください。  
<http://unhcr.refugeefilm.org/2018/> (難民映画祭公式WEBサイト)  
※受付開始:8月1日(水)  
※定員になり次第締め切ります。 **お申し込みはこちらから➡**  
<問合せ>国連UNHCR協会「UNHCR難民映画祭」事務局  
☎03-6427-7305(平日10時~18時まで。電話申込は受け付けておりません。)



**上映作品の一例 『Soufra』(原題)**  
レバノンの難民キャンプに暮らすパレスチナ難民の女性たちが幾多の困難に遭いながらも、得意な料理で起業を目指す。人類史上最も大規模な難民危機で生まれたサクセスストーリー。  
その他、シリアで生存者を救う男たちを取り上げた『アレppo 最後の男たち』や日本で「自分の生きる道」や「幸せ」を模索するビルマ人青年を追った『異国に生きる』など計6本の映画を2日間にわたり上映します。

**名古屋上映 特別企画**  
この地域の 難民支援者による トークセッション も行います!

『Soufra』©Lisa Madison ※映画の詳細については難民映画祭公式WEBサイトをご覧ください。  
名古屋上映主催:国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)駐日事務所、特定非営利活動法人 国連UNHCR協会、公益財団法人名古屋国際センター

隔月刊「ニッパ・ニュース」 No.387 平成30年8月1日発行  
発行・編集 公益財団法人 名古屋国際センター  
〒450-0001 名古屋市中区那古野一丁目47-1 名古屋国際センタービル内 TEL 052-581-0100 FAX 052-571-4673  
E-Mail: info@nic-nagoya.or.jp Web: http://www.nic-nagoya.or.jp ●制作:デザイン 中田謙雄(フーズメント印刷株式会社)



Nagoya International Center

名古屋国際センター NAGOYA INTERNATIONAL CENTER

# NIC NEWS

なごや 国際交流通信  
隔月刊 ニッパ・ニュース

2018  
8・9  
No.387

表紙の写真:教会に集まるベトナムの若者たち(カトリック五反城教会提供)

## 特集 外国人と、コミュニティと、地域社会と ~こんなに変わった!名古屋の多文化共生模様~

(公財)名古屋国際センター(NIC)は、地域の国際交流の拠点として、市民レベルの国際化の推進や外国人住民が安心して暮らすことができる多文化共生社会の実現を目指して活動しています。

各種お問い合わせは、3階 情報カウンターまでどうぞ。

- 情報サービスコーナー、ライブラリー  
火~日曜日 9:00~19:00(月曜休館)  
☎052-581-0100
- 貸し施設  
月~日曜日 9:00~21:00(予約受付は9:00~17:30)  
☎052-581-5679

●もっと詳しく知りたい方は… Web <http://www.nic-nagoya.or.jp> 名古屋国際センター 検索

フォロー大歓迎! Facebook [kokusaicenter](#) Twitter [@kokusaicenter](#)

NICへのアクセスは、地下鉄桜通線「国際センター」駅下車が便利です。  
休館のお知らせ:平成30年8月12日(日)はビル整備点検のため休館します。



# 外国人と、コミュニティと、地域社会と

～こんなに変わった！名古屋の多文化共生模様～

## データで見る、外国人と名古屋。

韓国、インドネシア、ミャンマー、フィリピン、タイ、中国、ハワイ、ジャマイカ、ブラジル、ラテンアメリカ、ドイツ、ハンガリー、ベルギー……。さて、これらの国や地域には、どんな共通点があるでしょうか—その答えは、ここ名古屋で私たちがその食や文化を気軽に体験できる国際的フェスティバルのテーマ国。これほど多種多様な魅力的なイベントが身近で開催されており、実際にその文化背景を持つ人々が地域の一員としてともに暮らしていることを、あなたは知っていましたか？

法務省によると、日本における在留外国人数はおよそ256万人(平成29年度末)。これは、前年度より約**18万人の増加**で、過去最高の伸びとなります。愛知県には、東京都に次いで第2位となる約24万人の外国人が暮らし、その数は全体の約3%—つまり、住人の100人に3人が外国人—というイメージがしやすいでしょうか。

さらに私たちが暮らす名古屋市について言えば、およそ230万人の人口に対し、3.5%を占める約8万人が外国人。その国籍内訳は**中国が約2万3千人と最も多く、以下韓国・朝鮮、フィリピン、ベトナム、ネパール**と続いています。\*1このように、数字で見ても、名古屋市が様々な文化背景を持つ人たちが共に暮らす国際社会であることは明らかな事実なのです。

## 時代とともに変わりゆく外国人

在住外国人の歴史を振り返ると、かつては終戦時に日本に残留した韓国・朝鮮人や中国人などの“オール

ドカマー(旧来外国人)”をはじめ、平成2年の入管法改正を境に増えたフィリピン人、ブラジル人などの“**ニューカマー(新来外国人)**”が主流でした。

ところがその内訳は、近年大きな変化を見せています。この地域のものづくりを支えてきたブラジル人・ペルー人等の日系南米人は、平成20年のリーマンショックをきっかけに減少の一途を辿りました。その一方、技能実習生・留学生として来日するアジア人が増加し、平成29年度にはネパール人の人口が初めてブラジル人を上回りました。このように、市内の在住外国人の構成は、目まぐるしく変化を続けています。

## では、想像してみてください—

あなたが、異国で生活することになったとします。言葉や生活習慣、文化も全く違う土地で、同郷の人に出会ったら—あなたはどのように感じるでしょうか—きっと懐かしい故郷を語り、友達になって、日ごろの不安や悩みを共有したり、困ったことがあれば助け合ったりしたいと思うのではないのでしょうか。

外国人が、地域社会の一員として暮らすとき、あらゆる面で支えとなるのがこうした“エスニック・コミュニティ(民族共同体)”です。国を支える労働力として移民を受け入れてきた国々、例えば、ドイツ、オーストラリア、カナダ等においても同様にエスニック・コミュニティが生まれており、その背景や在りようは様々ながらも、時代と共に変化を遂げています。\*2

それでは、ここ名古屋市の“エスニック・コミュニティ”がどのように生まれ、育ち、同胞の支えとして機能し、地域とつながっているのか、次頁からご紹介します。

名古屋市内在住外国人人口(国籍上位5か国)の推移

	H13	H17	H20	H23	H26	H29
1	韓国・朝鮮	韓国・朝鮮	中国	中国	中国	中国
2	中国	中国	韓国・朝鮮	韓国・朝鮮	韓国・朝鮮	韓国・朝鮮
3	ブラジル	フィリピン	フィリピン	フィリピン	フィリピン	フィリピン
4	フィリピン	ブラジル	ブラジル	ブラジル	ブラジル	ベトナム
5	アメリカ	アメリカ	アメリカ	アメリカ	ベトナム	ネパール

※名古屋外国人住民統計のデータを参考に作成(各年12月末時点)

\*1 名古屋市ウェブサイト参考。また、本誌P.10の名古屋市在住外国人人口参照。  
\*2 「多文化共生社会と外国人コミュニティの力—ゲッター化しない自助組織は存在するか？」吉富志津代 著

## Case 1

### 100年の歴史を新しい世代へ ～在日コリアンコミュニティの場合～

在日本大韓国民団 愛知県地方本部  
副団長/生活部長 **姜 裕正** 氏 にお話を伺いました。



戦後、祖国に帰国したくてもできない中で、同胞の生活と権利を護り団結するため、県人会や同郷会のような思いで民団が結成されました。深い心の結びつきをもった在日コリアン1世は、言葉の壁もあり、「必要以上に日本には世話になりたくない」と社会との接点を意識的に絶ち、自立してきた世代でもありました。

近年、市内の在日コリアンは減少していますが、その背景には、1・2世の高齢化、国籍法改正により日本が父母両系主義を導入したことで日韓の二重国籍者が増えたこと(現実的には当事者のほとんどが日本国籍を取得)、そして、帰化する人が増えているという3つの理由があげられます。

結成から70年が経過し、今や団員は3・4世が中心。3世の姜さんは、祖父母の時代から数えると地域に約100年住み、地域の町内会長も務めました。この世代になると、両親とも日本で生まれ育ち、韓国のことや両親のルーツをはっきりと知らない人も多く、日本人と何ら変わりなく地域に溶け込み生活できる時代となりました。一方、かつて団員が結束し支え合った共助の時代から、個人の重視、民族意識の希薄化も進んでいます。「若い世代に、どのようにして民族的アイデンティティを持たせ、地域社会と結び付けていくのか」が新たな課題のようです。

「最近では町内会に入らない人も多いですが、大災害の発生が予想される今、困ったときに互助的な役目を果たしてくれるのがこの町内会。隣に誰が住んでいるかわからないなど、人間同士のふれあいが少なくなりましたが、むしろこれからは地域とのつながりをきちん

としていかないと、災害時にどうすべきかわからないし、高齢者の孤独死の問題につながることもあります。そういう意味ではまだまだやるべきことがたくさんあり、同胞にも呼び掛けつつライフワークにしたい」と考える姜さん。

在日約100年を経て、5世の子どもたちへと未来へのバトンが託された在日コリアン。「長年にわたり、ともに暮らしてきた在日コリアンを、日本社会をともに構成する存在として認めてほしい。もちろん新しくやってくる外国人たちも、日本の習慣や風俗を理解する努力が必要です。外国人を区別せず、同じ地域住民として尊重される社会であってほしいですね。外国人との摩擦はどこ国でもあること。それを恐れて外国人を避け、怖がるのではなく、普通に受け入れてほしい。日本人も、外国人と接することで新しい思考が生まれる。その方が、日本の発展のためにも良い結果となるのでは」と姜さんは語りました。



## Case 2

### 地域につなげる防災のために ～フィリピン人コミュニティの場合～

4月のとある日曜、城北橋教会(北区)に大勢のフィリピン人が集まりました。この日は、フィリピン人コミュニティ「Philippine Society in Japan(PSJ)」の会員が楽しみにしているビンゴ大会。この会の冒頭で、名古屋国際センター(NIC)は、PSJ代表のネストール・ブノ氏の協力のもと、防災出前講座を実施しました。

同氏は、PSJの活動以外にも、東日本大震災の被災地域に住むフィリピン人を支援する「SAGIP Japan」の代表も務め、日頃から災害時の外国人支援について

関心を寄せています。一方、外国人を対象とした防災啓発に力を入れるNICにとっては、外国人コミュニティと協働しての講座は初めての試みとなりました。

当日は183名もの会員が参加し、NIC職員がやさしい日本語で講座を進めました。会員は、地震についての基礎知識をはじめ、地震発生時にすべきことの確認、非常持ち出し袋についての話に耳を傾け、命を守るための訓練も行いました。その際、PSJスタッフが通訳を買って出るなど、コミュニティの団結力も感じさせてくれました。ビンゴ大会の勝者にはPSJから非常持ち出し袋がプレゼントされ、大盛況のうちに講座は終了しました。

この防災講座をきっかけに、外国人住民一人ひとりが防災意識を高め、コミュニティ内の自助・共助はもとより、地域の担い手として積極的に関わっていただけたらとNICは願っています。



▲興味深そうに防災クイズに答える参加者

●NIC防災出前講座についてのお問い合わせ  
(公財)名古屋国際センター 交流協力課  
☎052-581-5689

### 教会は「家族」 ～ベトナム人コミュニティの場合～



カトリック五反城教会  
司祭 大海 明敏 氏 にお話を伺いました。

難民としてベトナムから来日し、在日30年。南山大学神学科を経て平成11年に司祭となった大海司祭は、神戸で帰化した後、関西や名古屋市内の教会で経験を積みました。29年度に五反城教会(中村区)の司祭に任命され、多忙な日々を送っています。



▲ミサに集まる人々

以降、彼を慕って多くのベトナム人が教会を訪れるようになりました。毎週日曜日の日本語のミサを訪れるベトナム人は60名程度。そして、月に1度のベトナム語ミサには約400名が集います。国内のベトナム人司祭は少ないため、今では豊橋市、福井県からも要請があり、各地でベトナム語のミサを行っています。

市内在住のベトナム人人口約8,000人のうち、カトリック信者は約4割。日頃、彼らは留学生や研修生、実習生として一生懸命学んだり、就労したりしながら、週に一度この教会に集まり、母国語で話し、情報交換し、日本語を学びます。信者でない外国人もやって来て、夜8時頃まで一緒に歌ったり、食事したり。「ベトナムでは親と一緒に生活し、親の言うことは必ず聞き、相談する。家族と離れて暮らす日本では相談する人がいないでしょう。だからここは家族みたいですね」と大海司祭は語ります。

教会での日本語指導は、日本人信者がボランティアとして活躍。そのお礼に若者たちは教会の草取りをするなど、互いに助け合っています。また、教会内の部屋を開放して町内会が利用したり、地域の人々にベトナム料理のフォーをふるまうバザーを開催したりと、地域との交流も盛んです。

ベトナム人コミュニティは事務所を構えるほどには組織立ってはいません。「今は準備のステージですね」。若者たちと参加したパーベキューの写真を見ながら、大海司祭は微笑みました。

### 多様な民族、多様な文化を大事に ～ネパール人コミュニティの場合～



Women for Women Nepal  
トゥラダール アスタ 氏 にお話を伺いました。

平成13年に来日し、名城大学で留学生として学んだアスタさん。当時はクラスの中でアスタさんだけが留学生、という環境でした。現在は三重大学の助教として環境学を指導する傍ら、Women for Women Nepalを主宰し、ネパールの女性に雇用を生み出す活動を行っています。

外国人コミュニティを知るには、その国の背景を知る必要があります。ネパールは、北海道の1.8倍の広さの国土に上部ヒマラヤ地帯、丘陵帯と低山ヒマラヤ、平野部が広がり、その多様な地形に由来した言語、宗教、風習、価値観の異なる多様な民族が存在しています。「ネパール人は、来日時のカルチャーショックが少ない。なぜなら母国内に既に多様性があるから」。アスタさんは言います。

アジアからの留学生は裕福でエリートというのとはステレオタイプなイメージで、市内在住のネパール人留学生の多くは地方出身。一生懸命勉強してより良いチャンスを見つけようと頑張っていると言います。慣れない外国での生活において、苦勞や課題を共有できるコミュニティの存在は重要です。市内のネパール人コミュニティは、ネパール人全体を対象にしたものもありますが、より求心力の強いのは民族単位のもので、祭や正月などが異なるそれぞれの民族の伝統文化を大事にしています。母国では知り合うことのなかったで

あろうネパール人と出会い、同胞同士のつながりを改めて深める場もあるのです。

ネパール餃子「モモ」を食べながら文化紹介をするイベント「モモナイト」を毎月開催し、日本人との交流を図るアスタさん。「ネパール人コミュニティはまだ小さいコミュニティで、日本のことを窓の外から見ている段階。だからモモナイトを続けたい。そのためにネパール人を講師に呼ぶなどして「ネパール人を活かす」こと、そしてネパール人コミュニティ同士の間をつなぐをつくって連携を深めることも大事ですね」とアスタさんは語りました。

Facebook WFWNepal 検索

#### ちょっとインタビュー

#### ネパール人バンド「Nakama'z」

「ネパール出身の6人で結成したバンドです。ライブには200人程ネパール人が集まります。集客力を活かし、若者たちへのメッセージを込めた映画上映会なども行っています。将来は、自然な流れで、名古屋でネパールフェスティバルを開催したいというのが僕たちの夢なんです。」



▲写真左からカドギルベシュさん、シャビラビさん、カサスディウスさん、シャビピクラムさん

このように、外国人コミュニティは、それぞれのペース、それぞれの手法で地域社会とつながろうとしています。ケース5では、少し違った視点で地域とつながるコミュニティについてご紹介します。

### 「みんなで」つくる、もうひとつのコミュニティのかたち ～徳林寺の場合～



相生山徳林寺  
住職 高岡 秀暢 氏 にお話を伺いました。

ヒメボタルの森・緑区相生山の麓に佇む徳林寺。現在の高岡住職の祖父の代に、名古屋の名勝地になるようにと創建され、約100年。信者さんを中心に地域に開かれ、数年前から始まった月1回の「つながりの朝市」は、訪れる多くの人で賑わいます。

徳林寺は曹洞宗のお寺。禅宗には「只管打坐(ただ座禅することで仏の道を開く)」という教えがあります。言葉があるから人は差別し合う。座禅に集中し、言葉を捨て、言葉を乗り越えることがペースとなる道元禅師のこの思想は、欧米の哲学者にも広く注目されています。



▲「住職が気の毒で、つつい手をだしちゃうの」と、支援者の松沢さん(左)。

高岡住職自身、ネパールに15年程滞在した経験から、現在もネパールと深い文化交流を続けています。また20年程前から、仏教を学ぶ留学生をベトナムから受け入れたり、キリスト教の教会と協力して、今日行く場所や寝る場所が無い難民申請中の人たちに部屋を貸すなどの人道支援をしてきました。この活動を支える

ため、「自給自足的」な発想で、太陽光パネルなどエコな世界を作りながら短期宿泊シェルター「みんなの家」のような環境を整えてきたのです。また、醤油や味噌を作る母親たちの食のグループ、エコ活動のグループ、朝市の企画グループなど、多種多様な集団が集い、活動を支えます。

「仏教とは、本来、コミュニティを作ろうという考え方なんです」と、高岡住職。「『仏法僧に帰依する』と言いますが、実はこの『僧』はお坊さんのことではなく、もともとはサンスクリット語で“僧伽(サンガ)”。つまり、集団、教会、コミュニティなどの意味を持っているんです。人とのつながりを大事にする教えが、現在につながっているのです。」

今日も地域の人がふらっと立ち寄り、住職や宿泊者と語ります。「来た人たちがここでつながれるということ、たまたま私がしているだけなんです」。住職の言葉どおり、支援者は自発的に井戸を掘り、木材を切ります。裏ではアフリカ人の宿泊者が薪を割り、来客があれば梅ジュースを出します。裏の空き地では、地域の学童の子どもたちが元気に走り回り、歓声をあげています。「No borders here.」(ここには境界線がないのよ)。記者に施設案内してくれた香港からの宿泊者が、そうつぶやきました。



▲薪を割る宿泊者

市内の外国人コミュニティは、長い歴史を経て、すっかり地域社会に根付いたグループもあれば、今まさに芽生えの時期のグループもあり、実に多種多様です。しかしどのコミュニティにも共通しているのは、自国の文化を大事にしながら日本の地域社会で暮らしていきたいという願いです。

外国人も日本人も暮らしやすい地域社会の実現のためには、冒頭で述べた各国のフェスティバルのような一過性の国際交流イベントの実施だけでなく、日頃から自分が暮らす地域に愛着を持てるような働きかけが必要ではないでしょうか。旧来の地域のつながりが薄れつつある今、こうした新しいコミュニティの形が、その代わりを果たしていくのかもしれない。

### 違いを認め、互いの人権を尊重し合う社会を築きましょう

近年、特定の民族や国籍の人々を排斥する差別的言動がいわゆるヘイトスピーチであるとして社会的関心を集めています。こうした言動は、人々に不安感や嫌悪感を与えるだけでなく、人としての尊厳を傷つけたり、差別意識を生じさせることになりかねません。

平成28年6月には、「本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消に向けた取組の推進に関する法律」が成立し、施行されました。

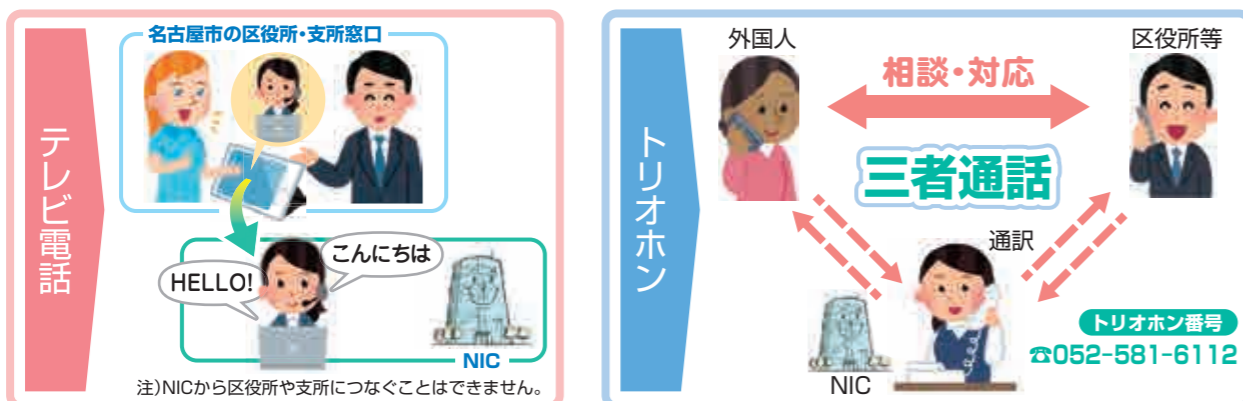
法務省では、英語や中国語などの通訳を配置した「外国人のための人権相談所」を、特定の法務局に開設し、相談に応じています。(参考:法務省ウェブサイト/右下のQRコード)

ヘイトスピーチによる被害など、人権に関する問題でお悩みの方は  
**みんなの人権110番 ☎0570-003-110**



このコーナーでは、日ごろあまり表に出ることのないNICの事業やボランティアスタッフの活動などをご紹介します。みなさんの知らなかったNICのあれこれを見つけてみてください。

## NICのテレビ通訳・電話通訳サービス



保険や税金の支払い、転入転出、子どもの保育園や学校など、様々な行政手続きの際、外国人の方は言葉や制度がわからず困ることがあります。そんな時に利用できるのが、このサービスです。NICのスタッフが8言語の会話をお手伝いします。

テレビ電話を利用した方は、「画面越しに書類を見せることができ話が早かった」と喜んでくださいました。スタッフの一人は、「内容を正しく伝えるために気を遣いますが、利用者の方に『助かった』と言われると嬉しいです」

と語っています。便利なNICのサービスを、言葉の問題でお困りの外国人の方にお知らせください。

対応言語	英語	ポルトガル語	スペイン語	中国語
	ハンガール	フィリピン語	ベトナム語	ネパール語

利用できる曜日と時間は言語によって異なります。NICのウェブサイト(右のQRコード)でご確認ください。

申込・問 広報情報課 ☎052-581-0100



## ぶらりライブラリー

### 「卵」と「玉子」?

名古屋市の外国人人口が8万人を超え\*、人口に占める割合が過去最高の約3.5%となりました(※6月1日現在)。当センターに寄せられる問合せも、外国籍の子どもの保育所への入所や学校の転入に関するものなど、外国人人口の増加をうかがわせる内容が増えてきました。

最近外国人の同僚に「卵」と「玉子」はどう違うの?と聞かれました。「たまご焼きの時は、玉子って書く気がするけど...」。はっきりとは答えられませんでした。

NICライブラリーの日本紹介コーナーにある「似ていることば」は、写真を見るだけでも楽しい本です。日本語の微妙な使い分けは日本人でも難しいですが、それを分かりやすく説明するのは更に大変です。「土用」や「夕立」など季節の言葉も、改めて意味を聞かれるとドキッとします。日本紹介コーナーには、このような日本の文化を紹介する本がたくさんあり、借りることもできます。

NICライブラリーは国際理解・国際協力・多文化共生に関する本を中心に集めています。難しく聞こえるかもしれませんが、「卵と玉子の使い分け」について知ることも多文

特に目的があるわけではないけど、ぶらっと来てみたら、気になることに出合える場所。このコーナーでは毎回NICライブラリーのご紹介をします。

化共生だと考えると、日本人の皆さんにももっと気軽に利用していただける図書館ではないかと思えます。ご来館をお待ちしています。



上段左から「似ていることば」「目でみることば 有頂天」「目でみることば」「目でみることば2」

本があるのは… [日本紹介コーナー](#)

クイズ Q. 卵と玉子はどう違う?

## 国際留学生会館から

### 「ネパールの金融の発展に貢献したい!」

名古屋大学大学院国際開発研究科 博士後期課程3年生  
パンティ プラディーブ(ネパール出身)

नमस्ते! तपाइलाई भेटदा खुशी लाग्यो! नाम्aste, तपाइलाई भेटदा खुशी लाग्यो! こんには、よろしくお願ひします(ネパール語)



今回は、2016年11月より国際留学生会館に在任し、大学院に通いながら、今年4月からNICの情報カウンターにて多言語スタッフ(ネパール語担当)として活躍中のパンティ プラディーブさんに、母国への思いなどについて語っていただきました。

私はネパールの農村で7人兄弟の末っ子として生まれました。幼少時、家族で日本製のラジオでニュースを聞いており、当時は村に電気が通っていませんでした。そのため、電池式のラジオのメカニズムに興味を持ちました。子どもながらに日本の技術力は素晴らしいと感じました。



▲2017年春期入居者オリエンテーション&バスツアー(名古屋にて(後列左端がプラディーブさん))

現地の大学院修士課程で金融学を学び、金融機関に就職し、支店長として勤務しました。ATMやネットバンキング、モバイルバンキングを設置しましたが、多くの農村部の人々は現代的な金融システムに興味がない

ないようで、それらを利用することの利便性や貯金の大切さを理解してもらえず残念な気持ちになりました。その後、アジア開発銀行や世界銀行などの報告書を丹念に読み込み、ネパールの金融発展に関することを学び、どうしたら農村部の人々に金融システムを理解してもらえるかを研究するようになりました。

世界には高度なリソースが多数ある一方で、貧しい人々はなぜいつまでも貧しいままなのか。金融開発について更に勉強するには日本が最もふさわしいと思い、2016年4月より現在の大学院に留学しています。幼い頃に聞いた日本製のラジオから始まった日本への思いや、日本がいかんして先進国として発展することができたのかを肌で感じたい気持ちもありました。



▲情報カウンターで相談に対応するプラディーブさん

将来の夢は、国際機関に就職し、途上国の金融政策に携わるとともに、ネパールの金融開発の専門家として母国の発展に貢献したいと思っています。

国際留学生会館とは… NICが2001年から管理・運営している、名古屋市区にある留学生専用の宿泊施設。居室90室のほか、研修室や和室、体育室などを備え、100名の留学生在生活できる。日本文化理解講座の開催や各種相談・情報提供、地域住民との交流などを行っている。

## シリーズ グローバルに活躍する若者たち

### 外国人の子どもとその保護者のために —自分に自信を持ち、自分で進路を選べる社会に—

愛知淑徳大学 小島 祥美ゼミ

今回は、「NIC Global Youth Award 2017」において、独自の視点や感性を活かした活動が評価され、準グランプリを受賞した愛知淑徳大学小島祥美ゼミの皆さんの声を紹介いたします。

#### 私たちがだからできること

学校の授業が理解できない、高校・大学進学が難しい、自分のルーツに自信が持てないなど、言葉や制度の壁で様々な問題を抱える外国人の子どもたちがいます。



▲メキシコでのワークショップ

私たちの同級生や仲間には、外国にルーツを持つ人が多くいます。ゼミ生にもいます。私たちは「多文化共生」を身近なことと感じています。そのため、私たち世代の発想力を生かし、外国人の子どもが抱える問題の解決に貢献したい!と考え、活動しています。

#### 外国人の子どもとその保護者のために

小島ゼミでは、東海地域に暮らす外国人の子どもを取り巻く状況に着目し、NPOや行政機関などと連携しながら、主に3つのことに取り組んでいます。

- ①就学前の子どもと保護者が抱える日本の学校に対する不安を解消すること
- ②子どもたちの自己肯定感を高めること

③子どもたちが今後のキャリア(生き方)を考える機会をつくること  
加えて、言葉も文化も違う外国人の子どもを気持よく理解するため、海外でのワークキャンプ(宿泊型ボランティア活動)にも挑戦しています。「すべての子どもたちが自分に自信を持つことができ、自分で進路を選べる社会にしたい」。これが私たちの願いです。

#### 活動を通して

外国人の子どもと接する中で、多くの学びがありました。日本の子どもと変わらない無邪気さ、一人ひとりに寄り添うことの大切さ、一人の人間として向き合えば互いに歩み寄れること…。NPO等と連携して地域課題に取り組むことや、仲間とともにプログラムを作り上げ、グループマネジメント能力を高めた経験は、私たちの成長と自信に繋がっています。小島ゼミの卒業生はその学びを生かし、小学校や行政機関、民間企業などで活躍しています。



▲子どもの自信につなげる多読活動

※「国際交流・国際協力・多文化共生」などの分野で活躍している若者の団体を表彰し、活動をサポートするNICのプロジェクトです。

◀ NIC Global Youth Award 2017の様子は、こちらの動画をご覧ください





この地域で暮らす外国人にスポットを当てて、ご紹介するコーナーです。



## 日本人が気づかない 日本のいいところ



カーベントナー プライアンさん  
(アメリカ出身)

名古屋の友達に会いに来たのが初めての来日。もう17年前のことです。着物姿のおばあちゃんとパンクファッションを身にまとった孫が仲良く並んで歩いている姿を目にし、そのギャップに心を奪われました。伝統的な文化と新しい文化が見事に融合する日本の文化は、本当におもしろく、興味深いです。日本の魅力に触れ、日本に住んでみたいと思ったことを覚えています。

現在、日本人の妻と小1の息子、4歳の娘の4人家族です。日本の集団登校は、とても良いシステムです。朝、上級生が家まで迎えに来て、一緒に登校してくれるので、親としては安心です。掃除の時間も、アメリカにはありませんでしたが、自分の生活する環境を責任を持ってきれいにするという考え方は、本当に素晴らしいです。家でも、息子が食器を片付けたり、洗濯物をたたんだりするようになりました。良い習慣が身について、親としてありがたく感じます。

これまで、子どもから大人まで、幅広い年齢層に英語を教えてきました。日本で働き始めた頃は、日本のビジネスマンの労働時間の長さには驚きました。前の職場では、急

要する仕事がなくとも上司より先に帰りづらい雰囲気があり、仕事を見つけて残業をしている同僚たちの姿がとても不思議でした。

数年前から友人が立ち上げた語学教室で、授業やプログラムの企画を担当しながら運営にも携わっています。将来、留学や海外で働くことを夢見る人たちの手助けができることが嬉しいし、やりがいを感じています。英語を教えるだけではなく、私自身も外国で暮らす先輩として、自分の経験など、将来役に立つことを伝えていきます。仕事は忙しいですが楽しいです。今では、すっかり私も労働時間が長くなりました(笑)。



▲家族との貴重な時間(七五三参りにて)



## 書き損じはがきをご寄付いただきました

下記団体より、NICが事務局を務める「世界寺子屋運動」名古屋実行委員会へ、書き損じはがきをご寄付をいただきました。ご協力いただきました皆さまに御礼申し上げます。ありがとうございました。



日本労働組合総連合会  
愛知県連合会(連合愛知)  
22,458枚(約106万円相当)



日本郵便株式会社  
名古屋市南部地区連絡会  
名古屋市北部地区連絡会  
名古屋市中部地区連絡会  
33,000枚(約155万円相当)



『世界寺子屋運動KARIYA』  
実行委員会  
(事務局:刈谷市社会福祉協議会)  
14,842枚(約70万円相当)

### 書き損じはがきキャンペーンとは

書き損じたり、汚れたり、余ってしまったはがき(ポストに投函していない通常はがき、年賀状)を集め、途上国の識字教育を支援しています。例えばカンボジアでは、書き損じはがき11枚で、1人が1か月間学校に通える資金になります。

問合せ先:(公財)名古屋国際センター交流協力課内  
「世界寺子屋運動」名古屋実行委員会事務局  
☎052-581-5691



詳しくはこちらをご覧ください。➡



～国際協力・フィリピン編～

3歩進んで2歩下がる  
地道な活動の先に目ざす、飢餓のない世界

テーマ:コミュニティ開発

ハンガーゼロ  
(※(一財)日本国際飢餓対策機構より名称変更)  
国際渉外部ディレクター 浅野 陽子さん



▲現地の人が手づくりした竹と木材の校舎

### 【自ら問題を解決できる力を一緒に培ってきたい】

飢餓のない世界を実現するため、アジア、アフリカ、中南米の開発途上国を中心に自立開発協力、教育支援、緊急援助などの活動を行っているハンガーゼロ。

活動地の一つ、フィリピン・ミンドロ島では、山岳地帯に暮らす原住民のタウピッド族が貧困の原因にもなる就学率の低さを課題としていました。

同団体では現地のスタッフが足繁く通って交流し、現地の人々の信頼を得るところから活動を開始。議論と試行錯誤を重ね、村に竹と木材で仮の校舎を建設しました。その後も村のリーダーが政府との交渉を継続し、建設に適した土地さえ取得できれば、正式な公立学校として認定され、本校舎建設と教師給与の援助を受けられるところまでたどり着きました。

「私たちはあくまで問いかけ、励まし続けるだけ。手助けはしても行動に移すのは彼らです」。浅野さんも「3歩進んで2歩下がるよ



▲校舎内で実施した保護者会

う」と表現した、継続に根気強さを要する活動。こだわる理由は、自分たちで考え前進したという成功体験が、今後新たな問題に直面した際も、自分たちで解決する糧となってくれる、そう信じているからです。

### リーダーズ・メッセージ

途上国の現状を知るほど、世の中の問題はめぐりめぐって自分の生活と直結していることに気づかされます。日々の行動の積み重ねがこれからは創っていく。何事も自分ごととしてとらえることの大切さを伝えていきたいです。



### 【毎日が気づきと学びの連続】

教育支援をしているケニア・ナイロビでの話。スラム街から成績優秀な子ども2名が中学校に進学できることに。驚いたのは、文具や寄宿生活に必要な生活用品一式のリストがいつの間にか作られ、まわってきたこと。そしてスラムの人たち一人ひとりが率先してリストのアイテムを提供し、皆で子どもをサポートしていたこと。電気や水道、物質的なものでは量ることのできない、人と人の豊かなつながりがあるんだと気づかされ、胸が熱くなったと浅野さんは語ってくれました。

ハンガーゼロ  
Web <https://www.jifh.org>  
Facebook [hungerzero](#) 検索



名古屋市とメキシコ市は1978年2月に姉妹都市提携し、昨年度40周年を迎えました。これを記念しメキシコ市から寄贈された記念品と、この9月に開催するイベントをご紹介します。



### ■「メキシコの翼」と写真を撮ろう！

今年3月に、メキシコの代表的な現代アートのブロンズ像「メキシコの翼」が寄贈され、白川公園(名古屋市美術館北側)に設置されました。身体と「願い、勇気、努力」の精神の羽ばたきの可能性が表現された作品で、シンガポール、テルアビブ(イスラエル)、ロサンゼルス(アメリカ)、ベルリン(ドイツ)、ケベック(カナダ)等の都市にも寄贈されています。



▲ホルヘ・マリオン作「メキシコの翼」  
2010(ブロンズろう型铸造)



### ■「マリアッチ・メキシカン・ミュージック」開催

メキシコから来日するマリアッチ(伝統楽団)によるメキシコ伝統音楽の無料コンサートを開催します。ディズニー/ピクサー映画「リメンバー・ミー」で使われた楽曲を始め、誰もが思わず一緒に口ずさみたくなる楽曲が盛りだくさんで、迫力ある演奏と歌声を聴きにぜひ足をお運びください。



▲マリアッチの演奏

●日時:9月13日(木)  
第1回 16:30~17:20  
第2回 18:30~19:20 ※1回目と同様の内容です  
●会場:アスナル金山 明日なる!広場  
(中区金山一丁目17番1号)

名古屋姉妹友好都市協会の公式ウェブサイト・フェイスブックでは、姉妹友好都市にちなんだイベント情報などを発信しています。ぜひご覧ください。

Web <http://nsca.gr.jp/> Facebook [nagoya.sistercities](#) 検索



名古屋国際センター(NIC)が行う催し・募集などの情報をお知らせするページです。メールでのお申し込みの方へのお願い / イベント名、開催日時、お名前、電話番号を必ずお知らせください。日時、内容などを変更する場合がありますので、予約不要のイベントでも、念のため事前にお問い合わせください。

●講演・セミナーなど●

発見！体験！地球市民キャンパス  
～1つの世界で暮らす私たち～

世界と日本が抱える問題と私たちの暮らしとのつながりを知り、問題解決のために私たちができることを考える講座です。

日時 8月29日(水)10:30～16:30  
場所 名古屋国際センター 5階 第1会議室他  
対象 中学生・高校生、教育関係者  
定員 60名(要申込) 参加費 無料  
申込 8月11日(土)10:00より、ウェブサイト(QRコード)、電話、メールおよび来館にて受付。定員に達し次第締切。電話と来館の受付は9:00～17:00(月曜休館)。  
問 交流協力課 ☎052-581-5691 ✉koryu@nic-nagoya.or.jp



JICA PARTNER 国際キャリアフォーラムin名古屋

外務省・海外コンサルタンツ協会・JICA(独立行政法人国際協力機構)の関係者などから、多様な国際キャリアについて最新の情報を得られる場です。一人ひとりのキャリアプランのヒントとしてください。JICAとの共催。

日時 9月1日(土)10:00～16:00  
場所 名古屋国際センター 別棟ホール  
対象 国際キャリアを目指す方(学生歓迎)  
定員 200名(要申込)  
参加費 無料  
申込 8月1日(水)～8月31日(金)、国際キャリア総合情報サイトPARTNERの専用フォームにて受付(参加にはPARTNER登録が必要)  
問 JICA PARTNER事務局 ☎03-5226-6785 ✉jjicahp@jica.go.jp Web http://partner.jica.go.jp

日本語ボランティア研修2018  
～開かれた地域社会をめざして～

第5回 お話を聞く会「聴覚障害者の日本語教室」  
講師：金 南坑氏(認定NPO法人名古屋ろう国際センター理事長) 聴覚障害者向けの日本語教室を主宰する講師に、聴覚障害者と外国人にとっての日本語についてお話していただきます。東海日本語ネットワーク(TNN)と共催。  
日時 9月8日(土)13:30～15:00  
場所 名古屋国際センター 5階 第1会議室  
対象 日本語ボランティア関係者およびその活動に興味のある方  
定員 先着50名(申込不要)  
参加費 500円(TNN会員は無料)  
問 交流協力課 ☎052-581-5689 ✉vol@nic-nagoya.or.jp

名古屋・南京友好都市提携40周年記念イベント  
～你好! NICで中国カルチャー体験～

南京市との友好都市40周年を記念し、南京や中国の魅力についての中国人講師が紹介します。切り絵、楽器、民族衣装などの体験もできます。

日時 10月14日(日)13:00～16:30  
場所 名古屋国際センター 5階 第1会議室  
定員 50名  
参加費 無料  
申込 9月11日(火)10:00より、ウェブサイト、電話、メールおよび来館にて受付。電話と来館の受付は9:00～17:00(月曜休館)。  
問 交流協力課 ☎052-581-5691 ✉koryu@nic-nagoya.or.jp

外国人児童・生徒サポーター研修【実践編】

現在外国人児童・生徒の教育や支援に携わっている方、今後活動再開予定のある実践経験者を対象とした研修です。講演やワークショップを通して現状や制度についての知識を深め、課題やよりよい支援について共に考えます。全3回。

日時 10月27日(土)、11月24日(土)、12月22日(土) 10:30～16:00  
場所 名古屋国際センター 5階 第1会議室  
対象 外国人児童・生徒の教育に携わる方(初めて受講する方、全3回参加できる方を優先)  
定員 40名  
参加費 2,000円(3回通し)  
申込 9月11日(火)10:00～10月12日(金)17:00、ウェブサイト、電話、メールおよび来館にて受付。定員を超えた場合は抽選。電話と来館の受付は9:00～17:00(月曜休館)。  
問 交流協力課 ☎052-581-5689 ✉seminar-vol@nic-nagoya.or.jp

◆外国人を対象とした事業◆

なごや市民総ぐるみ防災訓練

千種区で行われる防災訓練に、NICの災害語学ボランティアと一緒に参加しましょう。災害時の行動や防災について、参加者の母語や「やさしい日本語」で学びます。地震はいつ起きるかわかりません!ぜひご参加ください。

日時 9月2日(日)8:30～11:30  
場所 名古屋市立宮根小学校(千種区宮根台2丁目10-19)  
対象 名古屋市内在住の外国人(日本人同伴者の参加可)  
参加費 無料  
申込 8月24日(金)17:00までウェブサイト、電話およびメールにて受付。電話の受付は9:00～17:00(月曜休館)。  
問 交流協力課 ☎052-581-5689 ✉seminar-vol@nic-nagoya.or.jp

NIC日本語教室(9～11月コース)

期間 9月16日(日)～11月25日(日)の毎週日曜日(全11回)  
場所 名古屋国際センター

①NIC日本語の会  
対象 日本語を母語としない方(小・中学生は不可、名古屋市在住の方優先)  
定員 各コース15名～20名(定員を超えた場合は抽選) 各コースの詳細は、要項またはウェブサイトでご確認ください。  
受講料 2,500円(11回分。別にテキスト代500円～1,000円)  
申込 9月9日(日)11:00～11:30 名古屋国際センター5階 第1会議室で受付後、順次面接。受講料の支払いは12:15から。

②NIC子ども日本語教室  
対象 日本語を母語としない6歳から15歳までの子ども(2003年4月2日～2012年4月1日に生まれた子ども)  
時間 10:00～11:30  
定員 60名(定員を超えた場合は選考)  
受講料 1,000円(全11回)  
申込 9月9日(日)9:45～10:15 名古屋国際センター4階 第3展示室で受付後、順次面接(保護者または引率の方の同席が必要)。受講料の支払いは11:20から。

①②とも 問 交流協力課 ☎052-581-5689 ✉vol@nic-nagoya.or.jp

「NIC地球市民教室」外国人講師募集

「NIC地球市民教室」は、外国人講師が小中学校や地域の団体に外向き、様々なテーマに沿って母国を紹介する国際理解教育事業です。この教室で活躍していただく外国人講師を募集します。1回につき、名古屋市内の講演は6,000円、市外の講演は8,000円の講師料を依頼者よりお支払いします(税金・交通費込み)。詳しくは募集要項をご確認ください。

主な条件 ①日本語で講演ができること。(書類選考あり) ②事前の面接と研修(9月22日(土)面接13:00～、研修14:10～16:30実施)に参加できること。  
申込 所定の申込書を郵送または持参。9月15日(土)17:00必着。募集要項・申込書はNICのウェブサイトからダウンロードできます。  
問 交流協力課 ☎052-581-5691

■イベントなど■

「世界のいただきます」をつくってみよう!

外国人講師と一緒に世界の料理を作り、母国の話を聞きながら試食します。今回はブラジルのスイーツを作ります。

日時 8月18日(土)14:30～16:30  
場所 名古屋国際センター 3階 第1研修室  
対象 小学生と保護者  
定員 15組(要申込) 参加費 1人500円  
申込 8月4日(土)10:00より電話のみで受付。受付時間は9:00～17:00(月曜休館)。定員に達し次第締切。  
問 広報情報課 ☎052-581-0100

～若者が集い、世界とつながる場～  
グローバルユースCafe

パリストの本場デンマークで修業し、地元名古屋で新しいコーヒー文化を盛り上げる「TRUNK COFFEE」オーナーの鈴木康夫氏をゲストに、経験を踏まえてお話していただきます。当日は鈴木氏の淹れるコーヒーもお楽しみいただけます。

ニック・ニュース読者モニター募集

本誌の読者モニターを募集します。皆さまのご応募をお待ちしております。

期間 2018年10月1日から2019年9月30日までの1年間  
内容 「ニック・ニュース」(2018年10・11月号から2019年8・9月号まで1年間、隔月発行)及び「子どもニック・ニュース」(冬号・夏号の2回発行)のアンケート回答と読者モニター交流会(年2回程度)への出席。1年間活動いただいた方には、活動終了時に3,000円分の図書カードを贈呈します。  
人数 10名程度(応募者多数の場合は選考)  
申込 氏名、住所、電話番号、職業、年齢、性別、ニック・ニュース8・9月号(今号)の感想文(200字程度)を添えて、郵便、FAXまたはメールでお送りください。8月8日(水)～9月11日(火)(必着)  
問 広報情報課 ニック・ニュース係 ☎052-581-0100 FAX052-571-4673 ✉news@nic-nagoya.or.jp 〒450-0001 名古屋市中村区那古野1-47-1 名古屋国際センター 3階

名古屋国際センターサポーター募集中!

NICの活動を支援していただくために、サポーター(賛助会員)を募集しています。皆さまのご協力をお待ちしています。

年会費 学生1,500円 個人5,000円 団体50,000円  
※会員期間:学生・個人(平成31年3月迄)、団体(入会月から1年間)  
団体賛助会員 5月・6月更新団体  
愛知淑徳大学、有限会社しら河、瀬戸市役所、中部電力株式会社、名古屋信用保証協会 (50音順)

日時 8月22日(水)13:30～15:30  
場所 名古屋国際センター 3階 ライブラリー内交流スペース  
対象 15歳～35歳の若者  
定員 先着20名(要申込)  
参加費 無料  
申込 ウェブサイト、電話、メールおよび来館にて受付中。定員に達し次第締切。電話と来館の受付は9:00～17:00(月曜休館)。  
問 交流協力課 ☎052-581-5691 ✉koryu@nic-nagoya.or.jp

みなと国際交流のつどい

国籍も年齢も関係なく誰もが楽しめるお祭りです。屋台やおばけやしき、防災や防犯、ゴミの分別について学べるコーナー、盆踊りなど、楽しいイベントが盛りだくさんです。イベントを通して、住民どうしの顔の見える関係づくりをめざします。

日時 8月25日(土)16:00～19:30  
場所 九番団地集会所及び1号棟前広場(港区九番町1丁目1-1、地下鉄名港線「東海通」4番出口から北へ徒歩5分)  
参加費 無料  
申込 不要  
問 交流協力課 ☎052-581-5689 ✉vol@nic-nagoya.or.jp

外国語で楽しむ絵本の会

外国人ボランティアによる外国語の絵本の読み聞かせを開催します。外国の絵本ならではのイラストや色使いを見るだけでも楽しめます。

日時 8月26日(日)14:00～14:30(英語)  
9月1日(土)10:30～11:00(英語)\*  
9月23日(日)14:00～14:30(英語・中国語)  
場所 名古屋国際センター 3階 ライブラリー  
※9月1日(土)は中村図書館(中村区中村町字茶ノ木25)で行います。  
参加費 無料  
申込 不要  
問 広報情報課 ☎052-581-0100 ✉info@nic-nagoya.or.jp

裏表紙にも催しのご案内があります。ぜひご覧ください!

名古屋市在住外国人人口(国・地域別) 上位8か国(平成30年6月1日現在)		
	国・地域	人数
1位	中国	22,893
2位	韓国・朝鮮	16,754
3位	フィリピン	9,163
4位	ベトナム	8,245
5位	ネパール	5,892
6位	ブラジル	4,199
7位	アメリカ	1,694
8位	台湾	1,129
名古屋市在住外国人総人口		80,931
名古屋市総人口		2,319,467

編集後記 夏生まれの私。太陽ギラギラのこの季節だけは、どの占いを見ても運氣バツグン!わかっていても、いちいち確認したくなるものです。と同時に、こんな暑い季節に産んでくれた母に改めて感謝。(桃)